

「日本女性会議 2022 in 鳥取くらし」

第2回実行委員会議事録

【第2回実行委員会】

- 1 開催日時 令和2年11月25日(水) 午前10時～12時
- 2 場 所 市役所第2庁舎302会議室
- 3 出席委員 実行委員20名、オブザーバー2名
- 4 欠席委員 実行委員2名、オブザーバー1名
- 5 事務局 3名

6 講演

テーマ：倉吉市の男女共同参画の歩み

講師：山崎昌徳副市長

7 議事

- (1) 第1号議案 大会テーマについて
- (2) 第2号議案 シンボルマーク・ロゴタイプの募集の有無について

8 議事の経過の概要及び議決の結果

- (1) 大会テーマについて

大会テーマの決定

Smile in くらし ～だれもが共に笑顔になれる夢ある未来～

- (2) シンボルマーク・ロゴタイプの募集の有無について

① 公募の有無について

事務局より3案それぞれのメリット、デメリットを説明。

(委員からの意見)

- ・まず地元の方に大会を知ってもらい愛着を持ってもらうには、学生も含め地元で絞って公募したらどうか。また、鳥取県、近隣の県(島根県)など公募の範囲をせばればコスト的にもかからないのではないか。
- ・依頼というのは鳥取短大などを想定しての依頼ということか
→そのような想定をしている(事務局)
- ・学生等とあるが、学校に行っていない人が該当とならない。若者企画としてはどうか。
- ・地元で公募するのであれば年齢を限定しない方がよい。
- ・広く知ってもらうためには公募した方がよい。今は地元に住んでいない人もいるので全国公募にしたほうが、倉吉出身の方にも知ってもらえる。
- ・打吹まつりのTシャツデザインの募集は、以前倉吉に住んでいた、倉吉から出た方など、「倉吉市在住及び出身者」としている。
- ・全世界公募と言ってはどうか。
- ・くらすけくんが入っているものがよい

広く日本女性会議の開催を知ってもらうには公募にした方がよいが、地元への愛着を持ってもらうものとしたいとの意見が多数となる。

委員の意見を総括し実行委員長より、全国公募とし、募集資格に「鳥取県（倉吉）に思いのある方、思いを寄せてくださる方」を明記することが提案され、全員異議なく承認された。

② 賞について

総務部会を中心に案を出し、役員会で決定することを実行委員長より提案され、全員異議なく承認された。

賞について、現金だけでなく、カニや牛肉、鳥取県の特産品なども考えられると実行委員から提案があり、賞の内容についても総務部会で検討することとした。

9 報告事項

(1) 各部会の進捗状況報告について

① 総務部会

現在まで2回の部会を開催。

- ・部員の選出については、今後総務部の活動内容が具体的になってきた段階で、その事案の適任者へ依頼することとした。
- ・第1回部会で総務部の役割確認をした。他の部会に属さない案件が担当となることから、予測もしないことがあるだろうと考えながら部会を進めていきたい。
- ・第2回部会では、倉吉大会の予算を具体的に考えることとなった。
- ・協賛金、寄付等は大きな企業に声をかける。地元の事業所が2,000事業所あり、そちらにも気持ちよく応援していただけるよう働きかけたい。広報部会と協力し、開催前年度から大きな企業を当たっていきたくて考えている。
- ・学生の応援、次世代につなげるという話があったが、高校生や大学生、また今スポーツの分野（スポーツクライミング）でも女性が活躍している。そのような方々にも応援してもらいたいと思っている。

(委員からの意見)

- ・市民へのPRもかねて寄付のお願いしたらどうか
→平成18年に高齢社会をよくする会主催の全国大会で、絵はがきセットを買ってもらうことで寄付をしてもらった。そのような活動も考えていきたい。
- ・募金箱などを置いてもらうのはどうか。お店などに募金箱を置いてもらうことで広報にもつながると思う。
→部会で話し合って、広報を兼ねた寄付集めを考えていきたい。

② 企画部会

- ・現在まで2回の部会を開催。
- ・第1回部会では、意見交換を行い、分科会でどのような企画がしたいかを考えた。
- ・全国的な分科会を見ると同じような内容が見受けられる。倉吉大会では、テーマでもある笑顔を重点的に考え、大筋を離れることなく、男女共同参画を念頭に置きながらも新たな分科会を考えていきたいと思っている。
- ・第2回部会では、イベントについて話し合いを行った。市民、県民へのPRとして、倉吉市内で開催される主だった集まりごとなどに出向いてプレゼンさせてもらいたいと考えている。大きなイベントとして来年11月頃に開催予定の「よりん彩記念日フォーラム」で一緒にフォーラムを盛り上げ、日本女性会議もPRをさせてもらうのはどうかという提案があった。そのフォーラムの中で、分科会テーマの一つを規模の小さなものでもさせてもらうよう話をしていくこととした。

- ・また、食と健康についての体験型の分科会をしたいと考えている。例えば倉吉から関金町まで歩いて行き、きれいなわさび田を見てもらい、温泉につかってもらう。宿泊は全国的にも有名になってきている民泊をしてもらうなど倉吉から発信していくという計画もしている。また、過去の女性会議で取り上げられていない課題、障がい者にスポットをあてた分科会などをしてはどうかなどたくさんの案が出ている。
- ・みなさんに随時企画案を募集し、よい分科会が企画できるようコーディネートをしていきたいと考えている。

③ 広報部会

- ・次世代のリーダーを育成するというのも考えると、年齢や性別に関わらず広く市民の方へ知っていただきたいということで認識が一致している。
- ・準備段階から若い世代に関わってもらうための企画として、くらすけくんがパートナーと出会い、様々な問題（分科会テーマに沿った課題）を2人で解決し乗り越えて結ばれるというストーリーを考えているところ。また、SNS（Facebook、Twitterなど）での広報に中高生に参加してもらいたいと考えている。
- ・まず市民の参加意識を高め、それから全国へ倉吉の魅力を発信していきたい。
- ・今後の部会員の募集については、内容が決まり次第、目的に合った人材を集めたい。

(実行委員長より)

各部会には正副実行委員長がそれぞれの部会に入っている。

また、正副実行委員長、部会長が集まり役員会を定期的で開催し、部会の連携と情報の共有を行っている。実行委員の皆様で、部会に協力していただける方は部会への参加をお願いしたい。

10 協議事項

(1) 令和3年度事業計画（素案）について

実行委員会の開催について、来年度は3回を予定。予算に関する事、部会で協議された内容についての審議をしていただく。次にシンボルマーク・ロゴタイプの決定については、第3回実行委員会（来年4月頃予定している）で決定していただき、シンボルマークを使用しての広報を行っていく。

企業や団体、個人への協賛、寄付依頼については、総務部会が中心となり依頼先や依頼方法の案を考えていただき依頼していきたいと考えている。

大会PRについては、広報部会が中心となり幅広い年代の方が広報に関わることで、大会への参画、男女共同参画の推進を行いたいと考えている。メディアを利用した広報や、ニューズレターなどでの広報など、情報が届きやすくするため、様々な手段を考えていく。また、市内で行われるイベントへ参加し大会開催のPRを行う。

プレイベントについては、企画部会が中心となり、よりん彩記念日フォーラムへの参画、市内のイベントでのPRを考えていきたい。

(委員からの意見)

- ・様々なところで行われるイベントの把握は難しい。実行委員がチラシなどを持って広報してはどうか。そのためのチラシを作成してもらいたい。
- 広報用チラシを作成する。